

～横須賀市の学校教育～

輝け！よこすかの子どもたち

スクール救命教室（根岸小）



スクール救命教室（不入斗中）



土曜科学教室（教育研究所）



短期交換留学（横須賀総合高校）



- P 1 「命の大切さ」を伝えます ～スクール救命教室～
- P 2 理科への関心を高めるために ～土曜科学教室～
- P 3～4 子どもを守る ～よこすかケータイ・スマホ スタンド～
- P 5～6 不登校相談会 ～ハートフルフォーラム～
- P 7 英語が学べるまち・横須賀
～横須賀総合高校とキニックハイスクールの短期交換留学～

2015年9月
第8号



「命の大切さ」を伝えます～スクール救命教室～

横須賀市では、「適切な応急手当を行うことで救える命があること」を多くの児童生徒に理解してもらうため、小学校5年生と中学生を対象として「スクール救命教室」の取組を進めています。小学校では、保健学習の発展として、心肺蘇生法に関する知識を身に付けます。

根岸小学校



救急車到着までの時間は？



トレーニング器材で胸骨圧迫の練習



大きな声で助けを呼んで！



AEDは見たことあるかな？

中学校では、応急手当について学び、心肺蘇生法の実習につなげます。今回は、倒れている人に対するの初期対応から、心肺蘇生法を実施し救急隊に引き継ぐまでを学びました。10人のグループに1人の指導員がつき、丁寧な講習が行われました。3時間にわたる講習でしたが、初めは恥ずかしがっていた生徒たちも、少しずつ慣れ、全員がAEDの操作を含む心肺蘇生法が行えるようになり、普通救命講習修了証を手にしました。

不入斗中学校



一人一人が流れを体験

1



傷病者発見！

2



反応の確認

3



胸骨圧迫開始

4



人工呼吸と交互に

5



AED準備！

6



心肺蘇生を継続

理科への関心を高めるために～土曜科学教室～

実験や観察の体験を通し、子どもたちの科学に対する興味・関心を高めるための土曜科学教室を、横須賀市教育研究所で開催しました。

第1回は電力中央研究所から、第2回は株式会社ナリカから先生を招き、「電気」をテーマにして行われました。

『なぜだろう?』、『どうなっているのだろう?』という気持ちをもって、参加してください』という教育研究所長の挨拶で始まり、応募した30名の児童が、夢中で多くの実験やものづくりを体験しました。



あれっ?!
落ち方が違うよ
なぜだろう?

うず電流という電気の
せいだよ!

手回し発電機でためた電気で、
豆電球が光ったよ!



磁界の様子が立体的に
見えるね!



電気ブランコ完成!

「理科の実験が大好き!」という子どもたちに、先生は、実験を見せながら、次々に「なぜ?」を問いかけます。その質問に一生懸命答える子どもたち。あっという間に2時間半が経過し、満足した表情で帰りました。引率の保護者からは「いい機会ですね、またあったら参加させます」との声があり、お子さんとの会話もはずんでいた。

子どもを守る～よこすかケータイ・スマホ スタANDARD～

横須賀市では、「よこすかケータイ・スマホ STANDARD」というパンフレットを4月に配付し、ケータイ・スマホの利用について4つの取組を進めてきました。

本市では、全国学力・学習状況調査から「家庭学習の時間が短い」「スマホ等の利用時間が長い」といった課題が見えており、学力との相関関係も指摘されています。また、ネット依存症の危険をはじめ、ケータイ・スマホを使ったインターネットに関わるいじめや金銭等のトラブルが増加するなど、憂慮すべき状況があります。これらの課題解決のために、市教育委員会と市PTA協議会が連携し、小中学校と一緒に取組を進めているものです。

ケータイ・スマホは、保護者が子どもを守るという視点で、子どもと保護者が一緒に話し合っテルールを作ることが大切です。保護者の方は、与える責任、持たせる覚悟を！！

ご家庭では、よこすかケータイ・スマホ STANDARDの取組、進んでいますか？

保護者の責任において、子どもに貸し与えましょう。

ケータイ・スマホは便利なものですが、保護者には、**持たせる責任と覚悟**が必要です。

他人ごとと思わず、トラブルが起きる前に、家族で話し合ひましよう。これからの社会を生きていく子どもたちは、これらの機器の便利さを享受するだけでなく、その扱ひ方も十分身に付けなければなりません。学校でも様々な機会を捉えて指導していますが、基本はご家庭での指導です。

モラルやマナーを守り、思いやりを大切にすることを育てましよう。

無料アプリを使った閉鎖的なグループで起こるいじめは、周囲の人も気づかないまま、昼夜を問わず続きます。トラブルがあったら必ず家族に相談することを約束するとともに、相手の表情を見ることのできないネット上での言葉のやりとりのむずかしさを十分に伝えることが大切です。

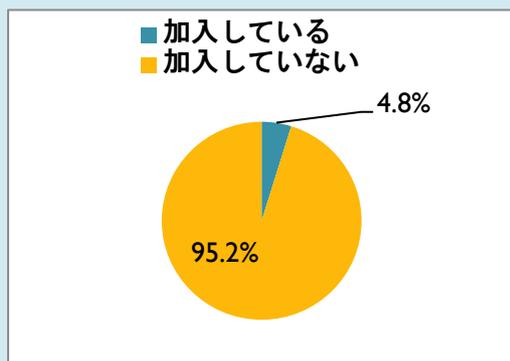
午後9時（中学生は10時）以降は、使用を控え、保護者が預かりましよう。

友達とコミュニケーションをとることは楽しいことです。でも、ついつい時間を忘れて、お互いが家で大切な時間を奪ってしまいます。ケータイ・スマホ依存による健康被害も報告されています。子どもの発達段階を考えて、使い方についてのルールを決めてください。例えば、家族のいる部屋にケータイを置くなど、家では家族の一員としての自覚を持たせることも大切です。

フィルタリング機能を必ず利用しましょう。

下のグラフは、トラブルにあった子どものフィルタリングの加入状況です。被害にあった子どものほとんどが加入していないことがわかります。

子どもは本来、好奇心旺盛です。ですから、ネット上で誘惑があれば、近寄っていくことは自然なことです。被害にあってからではなく、そうならないために、フィルタリング機能を利用してください。購入窓口や携帯電話会社等で対応してもらえます。



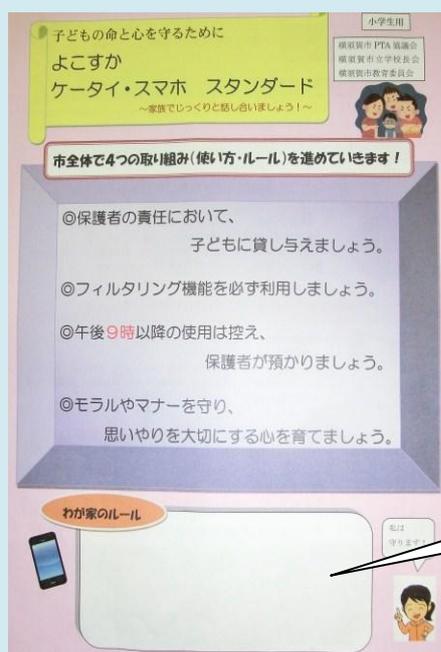
法律により、保護者は18歳未満の青少年に使用させるために携帯電話・スマートフォンを購入する場合は、携帯電話会社等にその旨を伝える義務があります。また、携帯電話会社等は18歳未満の青少年が使用する場合には、保護者からの申出がない限り、フィルタリングサービスを提供する義務があります。

【警察庁「コミュニティサイトに起因する児童被害の事犯に係る調査結果について」より（H26 上半期）】

わが家のルールは決めましたか？

横須賀市内でも多くの小中学生がケータイ・スマホを所持しています。便利に活用するはずの道具の使い方を間違えることで、人を傷つける道具になったり、自分自身が大きな被害を受けることになったりすることが、残念ながら起きています。

よこすかケータイ・スマホスタンダードをもとにした家庭での取組とともに、学校でもその使い方については、指導をすすめていきます。実際に貸し与えるのは保護者の方たちです。ぜひ、よこすかケータイ・スマホスタンダードの趣旨を理解していただき、ご協力ください。



〔例〕

- ・利用料金の上限額は、〇〇円までとする。
- ・〇〇時～〇〇時までには、使わない。
- ・パスワードは、保護者が管理する。
- ・友達の悪口は書き込まない。
- ・フィルタリング機能を勝手にはずさない。

「よこすかケータイ・スマホスタンダード」のパンフレット

不登校相談会 ～ハートフルフォーラム～

横須賀市では不登校の状態や登校しぶりのある児童生徒やその保護者を対象として、毎年、不登校相談会を実施しています。今年も7月18日に総合福祉会館で実施されました。この相談会は、参加した方々に学校生活の再開や社会的自立のための見通しを持ってもらえるよう支援することを目的としています。

フォーラム当日の内容

①登校支援機関活動紹介

- ・教育委員会教育相談
- ・横須賀市相談教室
- ・市内フリースクール
(アンガージュマンよこすか、湘南国際)

②不登校体験談 ……次ページにコメントがあります (過去不登校だった先輩・保護者より)

③個別相談

支援教育課臨床心理士が個別の相談にのりました。

④座談会

横須賀総合高等学校定時制の先生、相談教室の先生、過去お子さんが不登校であった保護者の方に加え、一般の方も参加しました。進路のことや、不登校状態にある子どもへの接し方等も聞くことができました。

横須賀市相談教室

- 汐入相談教室 (小学生対象)
汐入町 2-53 汐入小学校内
- 武山相談教室 (小・中学生対象)
武 3-31-1 武山中学校内
- ゆうゆう坂本相談教室
(小・中学生対象)
坂本町 2-39
- 公郷相談教室 (中学生対象)
公郷町 5-81 公郷中学校内
- 久里浜相談教室 (中学生対象)
久里浜 2-11-1 久里浜中学校内

ご相談は 市役所6階 教育委員会事務局 支援教育課 教育相談係へ TEL 046-822-8564



日常の相談教室の様子



不登校体験談より

不登校の時考えていたこと

不安な気持ち

私は連絡をしてくれる友達、様子を見に来てくれる先生、心配してくれる親に、いつも罪悪感を感じていました。

怖くて・・・

学校に行くのが怖い、無理やり行かせようとする親が怖い、明日が来るのが怖い、学校の友達に会うのが怖いと、とにかく恐怖に満ち溢れていました。

身体にいろいろな症状

娘はまだ小さいのに心がとても不安定になって、体にもいろいろな症状が出ていたので不安で心配でした。

現在不登校の状態にある本人・保護者の方々に向けて

保護者も自分の心と体を大事に

我が家の子どもたちの場合、心のエネルギーがこちらの思っている以上にマイナスな状態にありました。普通に生活を営むパワーがない時期もありました。当然、親も影響を受けます。皆さんもご自分が思っている以上に参っていると思います。実際私もそうでした。何度も高熱が出たし、喘息もひどくなりました。ぜひ保護者の方々、ご自身の心と体の状態に目を向けて大事にしてください。

一人で悩みを抱えないで

一人で悩みを抱えない方がいいと思います。周りに話せる人がいなければ、私は公的機関へ相談することをお勧めします。不登校になってしまった背景は一人一人違いますが、相談機関であれば類似ケースをよくご存じでしょうし、こちらが知らなかったような、思いつかなかったような選択肢が出てくるかもしれません。実際、娘の場合「ゆうゆう坂本相談教室」を紹介していただき、学校以外の選択肢があることがわかりました。子どもが不登校になってしまった時、お先真っ暗な気持ちになってしまうかもしれませんが、決してそんなことはありません。助けてくださる方もたくさんいます。でもこちらから言わないとわかりません。みなさんにとってよりよく生きられる道が見えてくることを願っています。

無理に行けと言わないで

あまり無理に学校に行けと言わないであげてください。進路などで心配なことも十分に分かります。それは本人も感じているものです。それに子どもはどうしても親に反抗したくなるものです。不登校になってしまった子どもは、きっかけがほしいのだと思います。私の場合は高校入試でしたが、例えば、先生との交流、今日のこの会に集まってくださっているようなさまざまな支援機関の方々との出会い、進級や進学など、小さなきっかけが大切なのだと思います。

親御さんは味方でいてあげて

私がここまでやってこられたのは、母親のおかげだと思っています。不登校が始まった最初のほうは、母親もあせって無理やり学校に行かせようとしていました。その時点で母親は私の敵でした。ですがしだいに私の味方になってくれるようになりました。何があっても味方であってくれました。不登校の子は数多くの「敵」を抱えています。親まで敵になってしまったら、何一つ支えてくれるものがなくなってしまいます。だからどうか、親御さん、皆さんは味方でいてあげてください。

英語が学べるまち・横須賀

～横須賀総合高校とキニックハイスクールの短期交換留学～

横須賀市では、横須賀総合高等学校の生徒が、アメリカの文化理解と総合的な英語力の向上を図り、国際社会で活躍できる人材となることと同時に、米海軍横須賀基地にあるキニックハイスクールの生徒が日本の文化理解を深め、日米の友好親善を図ることを目的に、両校間での交換留学の制度化を目指して、取組を進めています。



朝のキニックでの集合風景

留学後の座談会では「日本にいてアメリカに行きたいだった」「国内にいながら海外の人と触れ合えることが魅力」「留学を終えてからも交流は続いている」「3年生にとって春休みの14日間は貴重な時間」といったさまざまな声がありました。よりよい形でさらに発展させることを今後検討していきます。



留学後の座談会

総合高校から春休み・ゴールデンウィークを利用して、14日間キニックへ留学しました。キニックの生徒とバディを組み、バディの授業と一緒に参加しました。



充実した留学生活を語る！

《編集・発行責任者》 横須賀市教育委員会事務局 教育総務部総務課 教育政策担当

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

TEL：046-822-9709（編集担当直通） FAX：046-822-6849

E-mail：sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp

◇この冊子についてのご意見や感想をお寄せください。お待ちしております。



この冊子は、33,000部製作し、1部あたりの印刷経費は12円です。（広告収入を除く）

広告